

ISO/IEC 27001:2022改訂について

ISO/IEC 27001:2022の改訂状況についてお知らせいたします。



認証機関と利害関係者によるFDISの投票は、2022年9月22日に終了しました。これは、改訂された規格がまもなく発行されることを意味します。

FDISには、次のような明確化のための提案が含まれていました。「6.3 変更の計画」が追加され、「9:内部審査」と「10:改善」は2つのサブ条項に分割され、「マネジメントレビュー」は3つのサブ条項に分割されます。本質的に内容は同じですが、分離することで内容がより明確になります。「管理策」の付属書は、ISO/IEC 27002:2022改訂版を反映するように更新されました。これは、最も変更された参照標準です。

本件についてのお問い合わせは、弊社東京事務所 ISMS認証部(03-3669-7408/gordon.moir@intertek.com)までお願いいたします。

ISMS新セミナー案内

ISO/IEC 27001(情報セキュリティマネジメントシステム)内部監査員養成コースに加え、ISMSコースに新たに2つのオンラインセミナーが加わりましたので、ご案内いたします。

1)「DX時代に活躍するための情報セキュリティ実践活用術～ISO 27001による情報セキュリティ対策の有効活用～」:関心が高まっているデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に重要となる情報セキュリティ管理に関するセミナーです。DXは、クラウド、人工知能、モバイルなど新しい技術を使い、新しい仕事のビジネスモデルを作り出します。セミナーでは、DXにより今後予想される新しいビジネスモデルについての説明や参考となるインシデント例を紹介し、情報セキュリティ対策としてIT業界を中心に導入が進んでいるISO 27001の概要、活用方法について解説いたします。

2)「ISO 27002:2022規格解釈一日コース」:今年2月に改訂版が発行されたISO/IEC 27002:2022の規格解釈の要点を1日で学んでいただけるコースです。ISO 27001認証組織の管理責任者や内部監査員、情報システム部門の方に最適なコースとなっております。

7月の第一弾開催では好評をいただき、次回開催も予定しております。詳細は、弊社ホームページをご参照いただくか、インターテックアカデミー&トレーニング(03-4510-2767)までお気軽にお問い合わせください。

JACB主催オンライン講演会

日本マネジメントシステム認証機関協議会(JACB)は、弊社を含む、IAF(国際認定機関フォーラム)加盟の認定機関により認定されたマネジメントシステム認証機関の協議会です。JACBでは、昨年に続き今年もオンライン講演会を実施、直近の8月開催は「激変する環境下での経営革新～リスクを機会に変えるマネジメント」の内容で行われました。識者による講演は、「変化を機会に～顧客価値創造経営のススメ～」、「危機を克服する経営品質マネジメント革新」、「経営の強力なツールとしてのISO認証」など、大変興味深い内容となっていました。

講演会は、JACB会員認証機関の認証組織も対象となっていたため、弊社認証のお客さまも参加可能でした。今後の予定などは随時JACBのホームページをご参照ください。(http://www.jacb.jp/)

Q&A

お客様からいただきましたご質問についてご紹介いたします。

Question

ISO14001規格には、『ライフサイクル』や『ライフサイクルの視点』という言葉が出てきますが、ISO14001でいう『ライフサイクル』とは、どういったものでしょうか？また、『ライフサイクルの視点を考慮する』とは、具体的にはどういうことでしょうか？

Answer

ISO14001:2015の3.3.3項では、ライフサイクルとは、「原材料の取得又は天然資源の産出から、最終処分までを含む、連続的かつ相互に関連する製品(又はサービス)システムの段階群」とあります。つまり、製品の場合、原材料の調達から設計・製造、輸配送、購入・使用を経て、その後の廃棄・リサイクルまでの製品の一生を表す概念で、ライフサイクル全体を通してのインプット・アウトプットの特定およびそれらの環境影響評価をライフサイクルアセスメント(LCA)と呼びます。例えば、製造会社の場合、自社が受け持つ製造活動の環境負荷だけを考えていけば良いのではなく、ライフサイクルの上流にある、原材料採取から、下流側にある製品の配送や製品の使用、さらには使用後の処分に至るすべての段階での環境負荷を考慮し、ライフサイクル全体での環境負荷の低減が求められることとなります。(Intertek News 59号連載よみもの『環境とISO14001』(57)“ライフサイクルの視点を考える”より)

ISO14001では、詳細なLCAを要求するものではなく、ライフ

サイクルの各段階で発生する環境影響を把握し、直接的又は間接的に管理することを求めています。ライフサイクルの段階例として、①設計及び開発 ②原材料の取得 ③製造業務 ④受け入れと送り出しの両方向の輸送 ⑤顧客による製品またはサービスの使用 ⑥ライフサイクルの終了後の最終処分などがあり、後述のウェブサイトが参考になります。

近年、アフリカや南米で飼料穀物やパーム油の農場のための大規模な森林伐採、レアメタルなど鉱物資源の違法掘削が指摘されるようになりました。さらに「強制労働」などの人権問題も併発しており、「原材料の取得段階」は特に注意が必要です。まずは、ライフサイクルチェーンの確認と各段階組織間のコミュニケーションプロセスの確立、そして問題があれば該当組織と一緒に考える姿勢が必要でしょう。

(参照:IRCAジャパンサイト内専門情報「技術/規格」内『ISO14001:2015におけるライフサイクルの考え方』—<https://japan.irca.org/media/category02/life-cycle-iso-140012015>)